



高齢社会の日常に  
耳を傾ける



「LIFE IS CREATIVE 展 2019」開催直前

# 高齢社会の日常に 耳を傾ける

「高齢社会における人生のつくり方。」を開催。  
そこで始まつた活動のいくつかは、  
いまも継続しています。  
そして2019年10月、  
「LIFE IS CREATIVE 展 2019」がスタートします。

高齢社会をもつと  
イキイキ、ワクワクできる

社会にしたいとの思いから、

KITOでは2015年に

「LIFE IS CREATIVE 展

何が見えてくるでしょうか。  
一人ひとりのエピソードから  
その日常に耳を傾けました。  
そこで今回のニューズレターでは、  
その理解や認識は大きく異なります。

## 前回の「LIFE IS CREATIVE 展」について

会期:2015年10月3日(土)-10月25日(日)

高齢社会を考えるまでの課題や問い合わせ、疑問を入口に、ゲストや専門家とともにワークショップやトークセッションを行い、アイデアと成果を発表。その中で実施したパンづくりを通して地域の様々なシーンで活躍する高齢男性チームを育成する「男・本気のパン教室」、高齢女性を対象に洋裁技術やセンスを磨く「大人の洋裁教室」から、「パンじい」「洋裁マダム」といったチームが誕生し、KITOの内外でいまも活動を続けている。

前回の「LIFE IS CREATIVE 展」記録写真より

## INFORMATION

### LIFE IS CREATIVE 展 2019—高齢社会における人生のつくり方。

会期:2019年10月19日(土)-10月27日(日) 11:00-19:00

会場:デザイン・クリエイティブセンター神戸

入場:無料

主催:デザイン・クリエイティブセンター神戸 共催:Taiwan Design Center

日本と同様に超高齢化に直面している台湾から、機能性とファッショナビティを兼ねた高齢者ファッショニズムを考えるプロジェクトや、高齢者の夢を叶えるプロジェクトなど、先進的で優れた事例を厳選して紹介。台湾からのゲストによるトークセッションも開催し、現代社会が抱える高齢化問題への理解や知識を広める展覧会となる。

# 高齢社会の さやかなエピソード!

**花札の先生/**  
韓国人のWさんの住んでいるグループホームでは、花札の相手をしてくれる人がいないから、ここのオレンジカフェに来るときは花札ができるようにと思って、グループホームから持ってきていてね。韓国のおばちゃんは昔から花札はする。悲しみとかいろんなことを、花札をしながら話すんだよね。でも私は、花札をやったことがなかったから、Wさんに教えてもらなが勉強している。「いつになったら覚えるの!」なんて、いつも怒られながら(笑)。A

**夢のステージ/**  
「喫茶よりみち」に来てくれるお客様は、みんなカラオケが大好き。だからね、せっかくだからドレスを着てメイクして、きれいに着飾って大きなステージで歌わせてあげたいなって思っているの。その夢を叶えられずに亡くなってしまった方も多く、お客様たちに楽しい思い出を作つてあげたくて。それが私の夢。もっと欲を言えば、自由に使える今よりももっとオープンな場所がほしいかな。D

# 神戸ぐらしはじめました。

6人目

鈴木大義さん

(デザイナー)

神戸歴:9か月半(取材時点)



大学でデザインを学び東京へ就職するも、タイポグラフィの教育を研究するため関西の大学院へ。ヘルムート・シュミット氏の研究を行う傍ら、同氏のもとでアルバイト。現在、デザイナーとして活動するほか、大学でも自身の体験を伝えるべく教壇に立つ。

神戸への移住、最近増えているそうです。  
神戸に越して間もないあの人には、気になる質問をぶつけてみました。

## 坂の上のシェアハウスで感じた 引っ越し業者の偉大さ

「ロバート・フランク展」(2017年/KIITO)、アート・プロジェクト「TRANS-」のビジュアル担当など、神戸での仕事が増えたことを機に移住。知人のアドバイスから2018年に芦屋へ、その後すぐ、仕事のスタイルに合わせて板宿にあるシェアハウスへ引っ越しました。新居となったそのシェアハウスは、急な坂の上にある道幅の狭い住宅地の中。トラックが途中までしか登れないというトラブルは、引っ越し



業者魂のサポートで無事解決。注文したマットレスのサイズが合わず、なんてトラブルも、時が過ぎれば思い出に変わります。

文:大泉愛子(KIITOスタッフ)  
イラスト:安藤友美(KIITOスタッフ)

## 下田展久さんの 神戸めし

みみみ堂の「ポークカレー」



帰国するドイツ人アーティストを見送った足でお店に来てくださった下田さん。偶然にも、その方の来日初日にもみみみ堂を訪れたそうです。関西空港から飛び立つ彼女に想いを馳せながら、バンドマンから始まった音楽にあふれた人生のお話を語ってくださいました。

みみみ堂[県庁前]

神戸市中央区下山手通4-14-1

06.下田展久さん  
(C.A.P.)

「Marching KOBE」企画で  
KIITOと連携するC.A.P.(特定  
非営利活動法人 芸術と計画  
会議)の代表。



## 5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何?世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第13回は、デザイン都市だけでなく、世界遺産にも登録されているオーストリア第2の都市、グラーツから。

Q1「ここぞデザイン都市!」というスポット / Q2グラーツのまちを舞台にした文学や映画、音楽のオススメ / Q3最近、一番驚いたこと / Q4ハマっていること / Q5デザインをひと言でいえば

### Vol.13 オーストリア・グラーツ | Graz

- 1 ニューヨーク出身の芸術家、ヴィト・アコンチ(Vito Acconci)によってデザインされたムール川に架かる橋「The ISLAND」です。これは、都市の2つの地域をつなぐことで、コミュニケーションのための特別な場所とする、デザインされた作品でありながら、デザインのステートメントでもあります。人々を川に、そして川を人々に誘います。
- 2 グラーツを拠点に活動するバンドOPUSの曲「Live Is Life」。1985年に世界的にヒットしたこの曲は、いまだにあちこちで耳にします。
- 3 良い驚きとしては「Fridays for future movement」という、学生による気候変動問題のための学校ストライキ運動。悪い驚きとしては、政治的ボビュリズムの急伸。恐ろしいです。
- 4 デザインを社会開発と環境改善のための戦略的ツールとして確立すること。
- 5 デザイン=Differenzierung(分化)。私はデザインが違いを生みだすと確信しているからです。

### 答えてくれた人

Eberhard Schrempfさん

オーストリア・スティア州で創造産業のネットワークを継続的に発展させ、グラーツをデザイン都市の認定と発展に導いた。デザインおよびクリエイティブ業界の専門家として、国際会議のスピーカーおよびパネリストとして大人気。



今号のデザイナー | 高橋静香 デザインのかたわら、子どもが生まれたことをきっかけにオープンしたアートスペース+ギャラリー「あべのま」(大阪/阿倍野)を運営している。

## KIITO NEWSLETTER VOL.026

2019年9月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、  
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が  
年4回発行する情報誌です。

センターのコンセプトである+クリエイティブな  
活動を発信していきます。

発行:デザイン・クリエイティブセンター神戸

出版部 安藤友美・大泉愛子

編集:竹内厚[Re:S]

デザイン:高橋静香

写真:高橋静香(表紙)、片山俊樹、大塚杏子(p.2)

# KIITO:

## ACCESS

阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より

フランクリードを南へ徒歩20分

国道2号線を超えた神戸税関東向かい

神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分

ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分

\*駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## CONTACT

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4

TEL: 078-325-2235

E-mail: info@kiito.jp

開館時間: 9:00~21:00

休館日: 月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29~1/3

<http://kiito.jp/>

